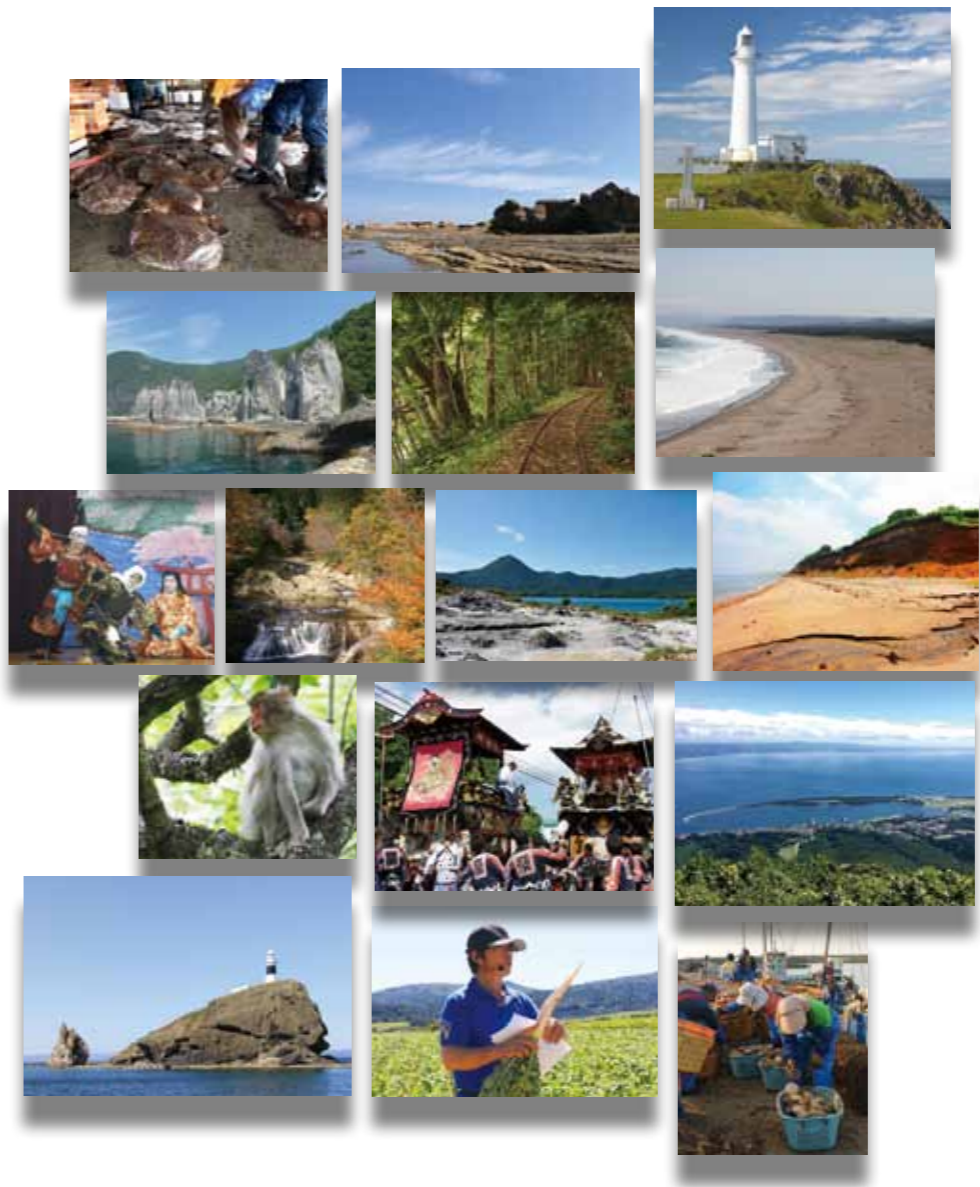


大事なことは、
下北で暮らしている
という誇りと
それを伝えること。



ジオパークに
認定されたという事実

私たちができること

私たちが暮らすこの下北半島には、大都会のような商業施設や、一年中大勢の観光客で賑わう絶的な観光名所はあまりありません。もしかすれば「下北はこれといったものが何にも無い地域だ」と思っていた方もいるかもしれません。

しかし、視点を変えて下北を見たとき、そこには下北にしか無い自然や文化、食がありました。地域の名所や名物が生まれた背景には、その地域ならではの地形や気候、海流などが密接に関係しているはずなんです。

ジオパークとは、そこに住む人々が地域の自慢を見だし、自然という遺産、文化という遺産を保全しながらその価値を学び、子供たちへの教育を支援する。また、観光客には自然と伝統文化、食を楽しんでもらうためのさまざまな活動を行う「仕組み」のことをいいます。

ジオパークに認定されたということは、下北が「将来にわたって保全され、地域住民が主体的に暮らし、その魅力を多くの人々が楽しむべき貴重な地域」と認められたということなんです。

「ジオパークになると、何かいいことがあるの?」
ジオパークに認定されたからといって、補助金のようなお金が地域に入ってくることはありませんし、何かを保証されるわけではありません。

大事なことは、下北で美味しい食材が獲れることには理由があり、その流通過程で伝わった文化や信仰、伝説には人々を魅了する力がある。そして、そのようなすばらしい遺産が今もなお残っていて、そこに私たちは暮らしていることを誇りに思うことです。

その誇りは、地域資源の保全や子どもたちの郷土愛の醸成、観光資源のブラッシュアップにつながり、私たちに返ってきます。「下北はジオパークって言うってね、下北半島に来れば日本列島を作る代表的な地質が観られるんだ。お祭りの時期はちょうどイカのお刺身もおいしいし、今度こっちに遊びにおいでよ。」

こんな会話で下北の魅力をみんなが語れたら、きつとたくさんの方が遊びに来てみたくになりますよ。

下北は まるごと日本だった

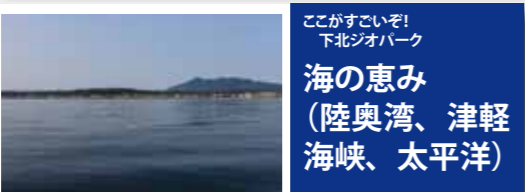
日本列島の大地は、長い時間をかけて積み重なった4つの地質で構成されています。下北ジオパークには、この日本列島を形成する4つの地質全てが集結しています。また、陸奥湾、津軽海峡、太平洋の3つの海に囲まれ、この多様な地質や海が生態系や人々の暮らしの多様性に色濃く影響を与えています。ごく狭い範囲でこれら全てを目にすることが出来る地域は全国でも珍しく、それゆえに下北半島は、「まるごと日本」を学べる地域と称されているのです。



プレート沈み込みがもたらす火山噴火が日本を火山列島へ。薬研や野平、恐山、燧岳の火山は、本州最北の火山群としてそれぞれカルデラを形成し、この狭い地域に4つのカルデラが分布する地形は下北ジオパークの特長になっている。



尻屋崎や尻尻地区は、プレートが海溝へ沈み込む時に海底堆積物が陸側へ押し固められた「付加体」と呼ばれる大地で、南太平洋のサンゴや貝類、プレート活動で移動する間に積もった海洋生物の遺骸でできている。



下北半島を囲む3つの海にはそれぞれの特徴が。津軽暖流が流れ込む陸奥湾、日本海と太平洋の潮汐差による流れの速い津軽海峡と遠浅の海底が広がる太平洋。多様な海がより多くの産物を育み、私たちに恵みを与える。



350万年前以降東北日本は、海底にたまった土砂が新たに陸地になり始めるなど、各地に特異な地形を作った。田名部平野は、波の侵食でならされ、隆起とともに恐山の火山灰が降り積もり土壌化することによって新たにできた大地だ。



下北はその昔、西まわりの航路による北前船での海路交易が盛んだった。下北の言葉や祭りに、上方などの文化が溶け込んでいる背景には、下北の地形や海がもたらした「上方や北方、津軽人との深い交流」という理由があった。



例えば脇野沢名産のタラ。津軽半島から吹風冷やされた陸奥湾の冷たい海流を好むタラが、冬場産卵に備え栄養を蓄えて脇野沢沖にやってくる。その時そこにある「美味しい」には、地形や条件、文化などその時そこにしか存在しない秘密がある。

ここがすごいぞ! 下北ジオパーク
海底火山で形成された大地

仏ヶ浦や焼山崎がある下北半島西側の大地は、日本海拡大期の海底火山の噴出物により形成され、隆起と波の浸食を受け造形された。脇野沢から仏ヶ浦までの色とりどりの急崖は、海底火山の断面だと推定されている。

「当たり前」と思っていた下北の恵みと文化は、
下北だからこそ生まれたものだった。
そういうことを、そこに暮らすみんなが知っていて、
地域を愛し続けること。